

# 咲洲ウェルネスタウン計画 ver.1.1

～ 南港ポートタウンの未来に向けて ～

平成30年4月

大阪市住之江区役所

# 目次

はじめに	1
1 南港ポートタウンの現状	
(1) 南港ポートタウンの概要	2
(2) 人口等の推移	6
(3) 住宅の立地状況	10
(4) 学校等の立地状況	11
2 魅力	
(1) 「圧倒的なみどり」や「豊かな自然環境」	12
(2) 子育てしやすい「安全」で「安心」な環境	12
(3) 南港ポートタウン内外に特色ある大学や企業などが存在	13
3 課題	
(1) 急激な少子高齢化・人口減少の進展	14
(2) まちの自動更新が期待できない	16
(3) まちに関する情報発信が不十分	16
(4) 商業施設などの撤退傾向	17
4 めざすまちの姿	18
5 今後の取り組み	
(1) 基本的な考え方	19
(2) 具体的な取り組み（全体スケジュール）	23
(3) フェーズ1（後半期）の取り組み	25
[参考] 計画策定までの主な経過	34
おわりに	36

# はじめに

---

## 【咲洲ウェルネスタウン計画改訂の趣旨】

南港ポートタウンは、大阪市が開発した、いわゆるニュータウンで、1977(昭和 52)年のまち開きから 40 年が経過し、緑豊かな住環境を有するまちに成長してきました。

一方で、社会環境の変化とともに少子高齢化、人口減少の進展、住宅や施設の老朽化など、様々な問題も現れはじめています。特に少子高齢化や人口減少については今後も加速して進行することが予測されています。

南港ポートタウンを今後も将来にわたって、多様な世代が集い、笑顔あふれる魅力あるまちにしていくために、市内部で検討を重ねるとともに、地域住民との意見交換を重ね、2015(平成 27)年 4 月に今後のまちの姿と当面の短期的な取り組みを中心にまとめた「咲洲ウェルネスタウン計画 ver. 1.0 (以下、「計画 ver. 1.0」という)」を策定するとともに、2015(平成 27)年度から 2017(平成 29)年度まで、フェーズ 1 (前半期)の取り組みに着手しました。

この間、住民主体の咲洲まちづくりプロジェクトチーム (以下、「咲くまちPT」という)により、着実にまちづくりの取り組みが行われ、また、小中一貫校の開校や、中高一貫教育校の開校(予定)など、新しいまちの動きも生まれつつあります。一方で、少子高齢化や人口減少に対する抑制ができていないことが課題となっています。

また、周辺のコスモスクエア地区の開発、さらには万博・IR 誘致の動向にも注視していく必要があります。

これまでの取り組みの成果と課題を踏まえつつ、フェーズ 1 (後半期)となる 2018(平成 30)年度以降の具体的な取り組みを策定するため、「計画 ver. 1.0」を改訂していくこととしました。

## 【咲洲ウェルネスタウン計画改訂の経過】

「計画 ver. 1.0」におけるフェーズ 1 (前半期)である 2015(平成 27)年度から 2018(平成 29)年度までの取り組みと、その間に生じた社会経済情勢の変化を考慮するとともに、今後も持続的、発展的な取り組みとなるよう、「咲洲ウェルネスタウン計画 ver. 1.1 (以下、「計画 ver. 1.1」という)」に改訂することとし、これまでの取り組みの成果、課題を抽出し、課題の解決方策の検討、また今後の取り組みの方向性については、地域住民との意見交換も重ねながら、計画改訂の素案を作成し、これに関係各局との協議や専門家からのアドバイスを反映して、最終的な計画として取りまとめました。

今後、この「計画 Ver. 1.1」を当面の指標とし、取り組みを進めていきます。

# 1 南港ポートタウンの現状

## (1) 南港ポートタウンの概要

南港ポートタウンは、大阪のまちづくり課題であった公害問題へ対応する環境モデル都市として大阪市が整備を進め、1977(昭和52)年にまちびらきを行い、1986(昭和61)年に概ね完成しました。港湾地域の中にある敷地面積約100ha、約1km四方の道路と緑地に囲まれ、計画的に高層住宅や教育施設、公園緑地が配置されたまちです。居住エリアは緑地や商業施設により4ブロックに区分され、緑のまち、海のまち、太陽のまち、花のまちの愛称が付けられています。

1981(昭和56)年にはニュートラム南港ポートタウン線(住之江公園駅 - 中ふ頭駅)が、1977(平成9)年にはOTSニュートラムテクノポート線(コスモスクエア駅 - 中ふ頭駅)が開業し、都心への利便性向上が図られました。海に近接し、みどり豊かな公園や緑道、全国的にも珍しいノーカーゾーン(※1)の設定など、先進的かつアメニティ高い住宅地として整備され、発展してきました。

南港ポートタウンの位置



(※1) ノーカーゾーン

- ・南港ポートタウン内は、大阪府公安委員会による終日車両（タクシー・自転車及び歩行困難者又は人力での運搬が困難な荷物を輸送する車両を除く）の通行禁止規制がなされており、車両の通行は原則禁止（参考：駐車場は、南港ポートタウンの外周に整備）
- ・交通事故や自動車に起因する交通公害（騒音、振動、排気ガス等）の排除による安全・快適な居住環境を維持することを目的として、まちびらき当初から導入

(※2) コスモスクエア地区

- ・もともとは企業等の立地のみが想定されていた地区。コスモスクエア駅周辺の一部を住宅地として、2006(平成18)年から入居開始

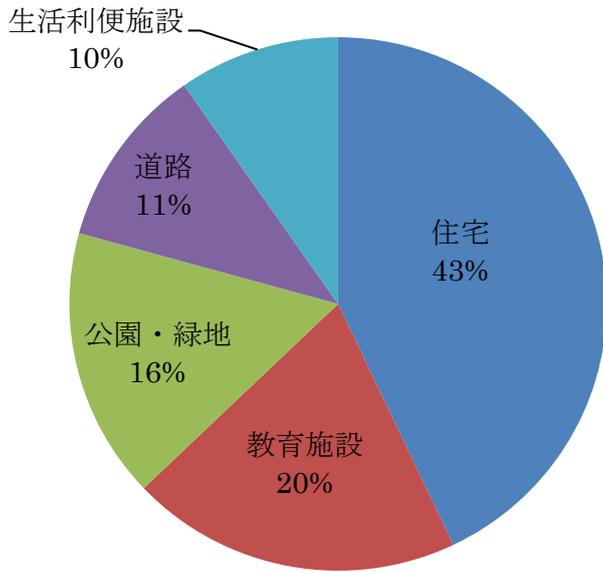
【概要】

- ・ 人口 : 3,876 人 (2015(平成27)年 国勢調査) 65歳以上割合:17.1% 14歳以下割合:20.8%
- ・ 住居 : 約1,300戸 (全てが共同住宅)

南港ポートタウンの概要

項 目		内 容
事業主体		大阪市
入居開始時期		1977 (昭和 52) 年
完成時期		1986 (昭和 61) 年
開発面積		約 100ha
人口	計画	40,000 人
	最大	32,036 人 (1990(平成2)年 国勢調査)
	現状	20,868 人 (2015(平成27)年 国勢調査)
計画戸数		10,000 戸
現状世帯数		9,196 世帯 (2015(平成27)年 国勢調査)
教育施設		6 幼稚園・保育園、3 小学校、3 中学校、高校、大学 (予定含む)
生活利便施設		まちの中心部(駅周辺)に店舗、銀行、クリニック など
官公庁施設		・住之江区役所南港ポートタウンサービスコーナー(まちの中心部) ・南港中央交番 (南港ポートタウン東側 車両進入ゲート横)

### 南港ポートタウン土地利用面積



用途	面積(ha)
住宅	約 43ha
教育施設	約 20ha
公園・緑地	約 16ha
道路	約 11ha
生活便利施設	約 10ha
合計	約 100ha

(出展：『大阪築港 100 年』下巻 大阪市港湾局)

### 南港ポートタウンの交通アクセス



南港ポートタウン開発の経過及び今後の予定

時 期		内 容
1973	昭和 48 年	・南港ポートタウンのまちづくり基本構想 市長・助役会にて正式決定
1977	昭和 52 年	・南港ポートタウン まち開き ・南港光小学校、南港北中学校 開校 ・南港ポートタウン管理センター 開設 (サービスコーナー、郵便局、銀行、医療施設など)
1979	昭和 54 年	・南港ポートタウンショッピングセンター施設 (第 1 期) 開設
1980	昭和 55 年	・南港緑小学校 開校
1981	昭和 56 年	・ニュートラム開業 中ふ頭駅～住之江公園駅 ・南港桜小学校 開校
1982	昭和 57 年	・南港渚小学校 開校
1983	昭和 58 年	・南港南中学校 開校 ・南港野鳥園 開園 ・相愛大学及び相愛女子短期大学 (現相愛大学) 南港ポートタウンに移転
1984	昭和 59 年	・南港ポートタウンショッピングセンター施設 (第 2 期) 開設
1985	昭和 60 年	・南港ポートタウン西駅前商業施設 開設 (郵便局・理美容・飲食などを含めた店舗)
1992	平成 4 年	・南港ポートタウンショッピングセンター飲食店舗施設「カリヨンプラザ」開設 (ポートタウン東駅付近)
1997	平成 9 年	・OTSニュートラムテクノポート線 開業 (コスモスクエア駅～中ふ頭駅 (中央線接続))
2005	平成 17 年	・交通局一括運営 (OTSニュートラムテクノポート線編入) ・ポートタウン西ビル 開設 (ポートタウン西駅付近) (スーパーマーケット (1 階)、貸し会議室 (2 階))
2018	平成 30 年	・大阪府立咲洲高等学校 閉校 ・咲洲みなみ小中一貫校 開校 (南港南中学校・南港みなみ小学校)

----- 【今後の予定】 -----

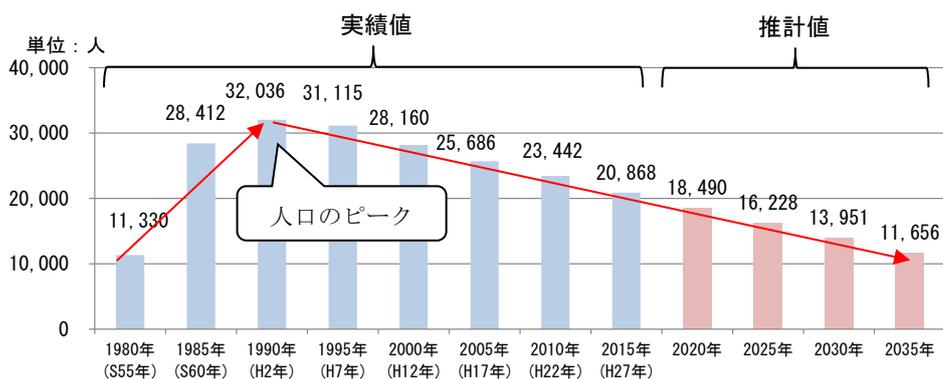
2019	平成 31 年	・大阪市立水都国際中学校・高等学校 開校 (公設民営の中高一貫教育校) 4 月開校予定 (2024 年 全 18 学級が揃う予定)
------	---------	--

## (2) 人口等の推移

### (ア) 人口の推移

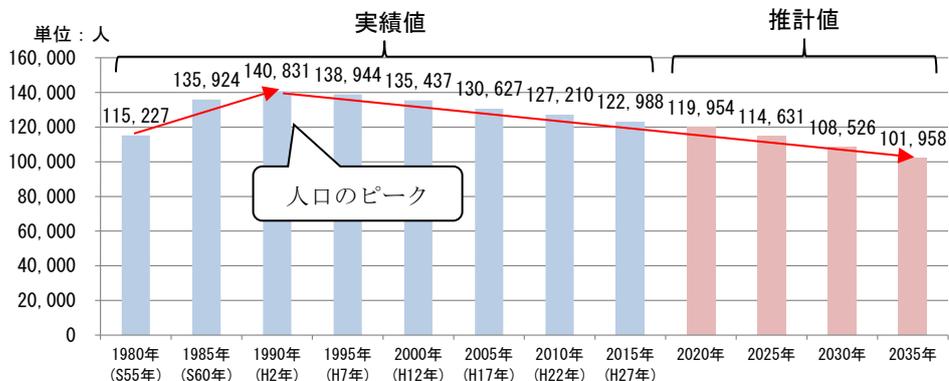
南港ポートタウンの人口は、1990(平成2)年の32,036人をピークに減少傾向にあり2015(平成27)年時点で20,868人となっています。住之江区も南港ポートタウンと同様に1990(平成2)年をピークに減少傾向にありますが、住之江区は2015(平成27)年時点人口がピーク時の約9割であるのに対して、南港ポートタウンは約7割と急激に人口が減少している状況にあります。

南港ポートタウンの人口推移(1980～2015年：実績値、2020～2035年：推計値)

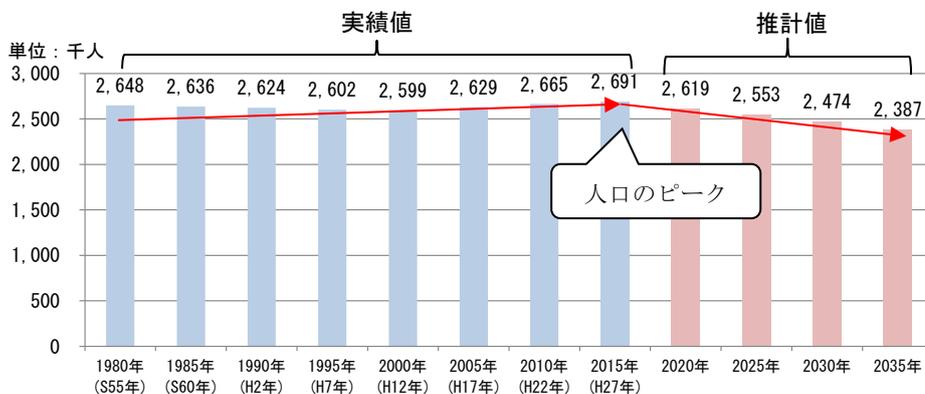


### 【参考】

住之江区の人口の推移(1980～2015年：実績値、2020～2035年：推計値)



大阪市の人口の推移(1980～2015年：実績値、2020～2035年：推計値)



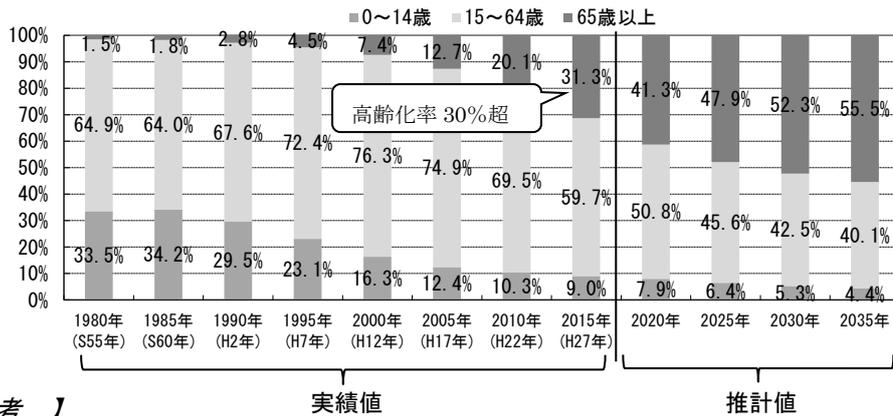
※ 実績値は国勢調査より。南港ポートタウンの推計値は2010(平成22)年、2015(平成27)年国勢調査人口よりコーホート要因法で独自に算出。住之江区、大阪市の推計値は『日本の地域別将来推計人口(2013(平成25)年3月推計)』より(国立社会保障・人口問題研究所)。

### (イ) 年齢階層別人口構成（高齢化率等）の推移

南港ポートタウンの高齢化率は、まちびらきから20年強の2000(平成12)年までは非常に低い状況でしたが、2005(平成17)年に10%を、2010(平成22)年には20%、2015(平成27)年には30%を超え、その速度が増えています。2010(平成22)年時点で南港ポートタウンが20.1%、住之江区が22.9%、大阪市が22.7%と住之江区や大阪市の方がやや高くなっていますが、2015(平成27)年時点での高齢化率は南港ポートタウンの方が高くなっています。

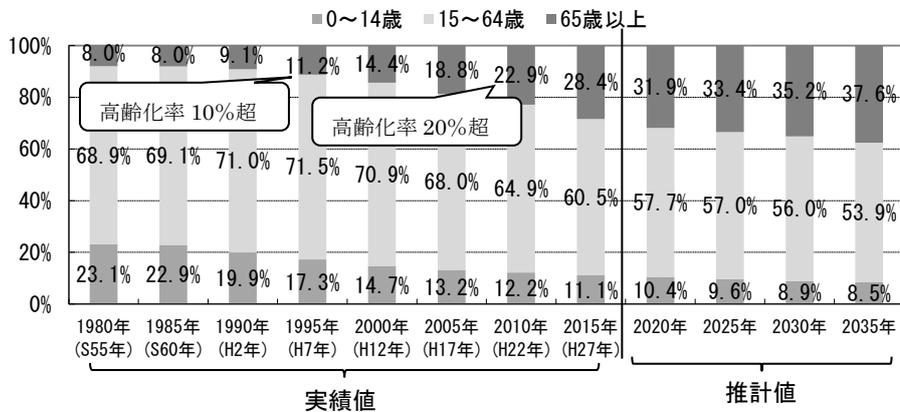
また、0～14歳の割合についても、まちびらき後しばらくは非常に高い率で、子どもの多いまちでしたが、2000(平成12)年には20%を下回り、その後わずか15年後(2015(平成27)年)には10%を下回っており、少子・高齢化が急激に進んでいます。

南港ポートタウンの年齢階層別人口構成の推移（1980～2015年：実績値、2020～2035年：推計値）

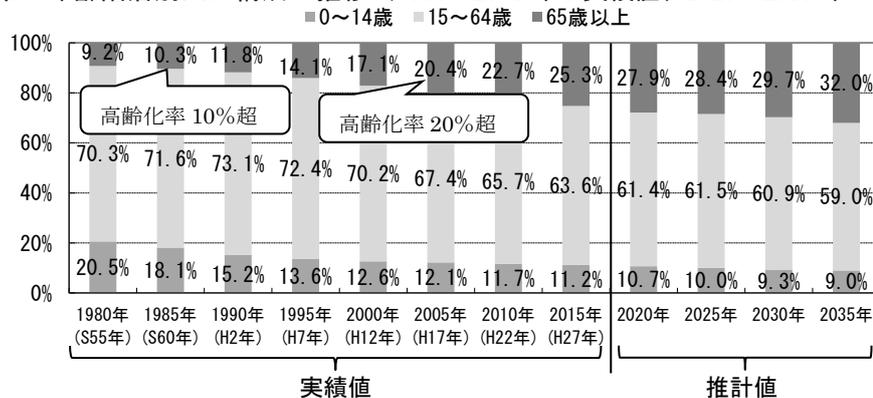


【参考】

住之江区の年齢階層別人口構成の推移（1980～2015年：実績値、2020～2035年：推計値）



大阪市の年齢階層別人口構成の推移（1980～2015年：実績値、2020～2035年：推計値）

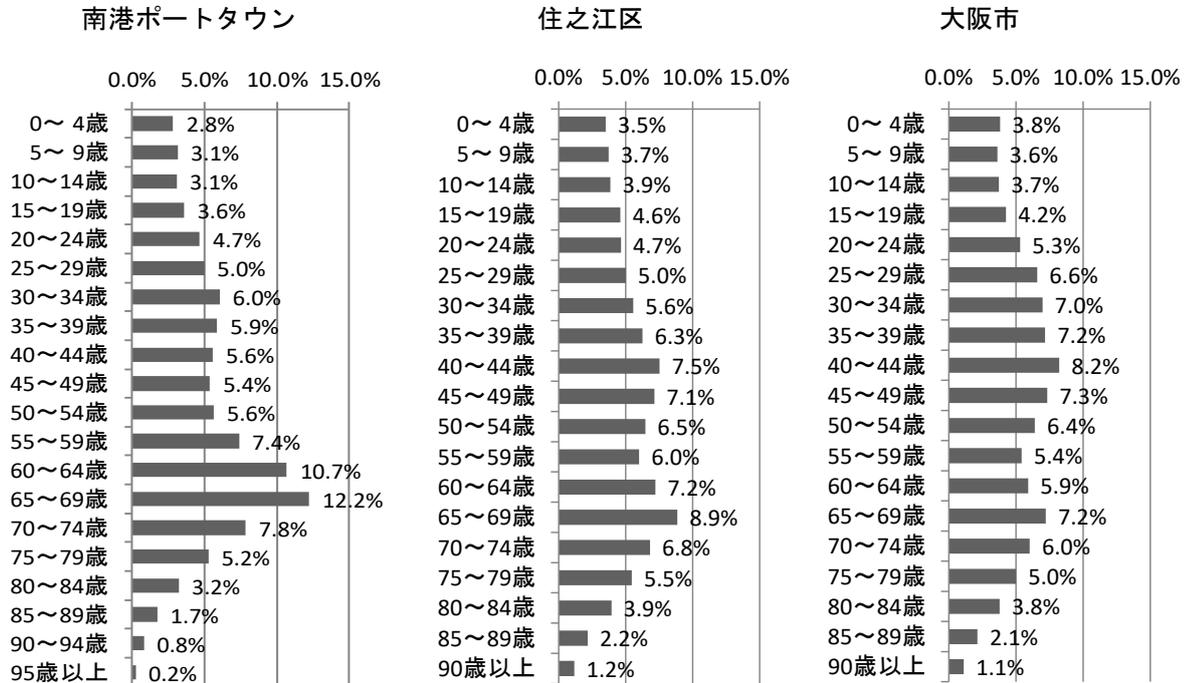


※実績値は国勢調査より。南港ポートタウンの推計値は2010(平成22)年、2015(平成27)年国勢調査人口よりコーホート要因法で独自に算出。住之江区、大阪市の推計値は『日本の地域別将来推計人口(2013(平成25)年3月推計)』より(国立社会保障・人口問題研究所)。

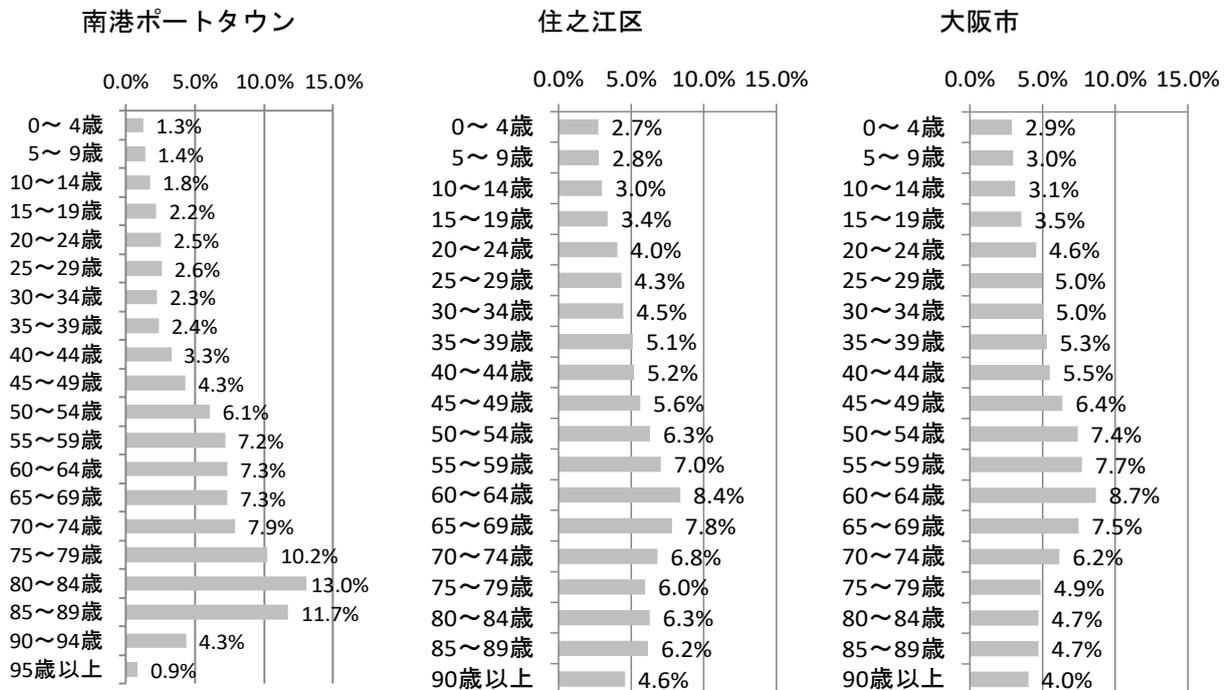
### (ウ) 5歳階級別人口の推移

5歳階級別人口は、2015(平成27)年時点では65～69歳が約12%を超え最も多くなっています。住之江区や大阪市と比べると、60～64歳や65～69歳の占める割合が高く、今後更に、急激に高齢化等が進むことが想定されます。

5歳階級別人口構成の推移（南港ポートタウン・住之江区・大阪市（2015(平成27)年）：実績値）



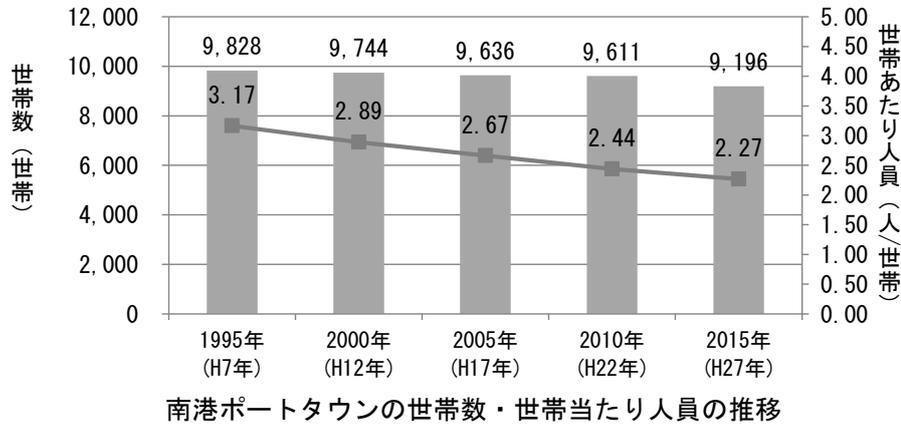
5歳階級別人口構成の推移（2035年：推計値）



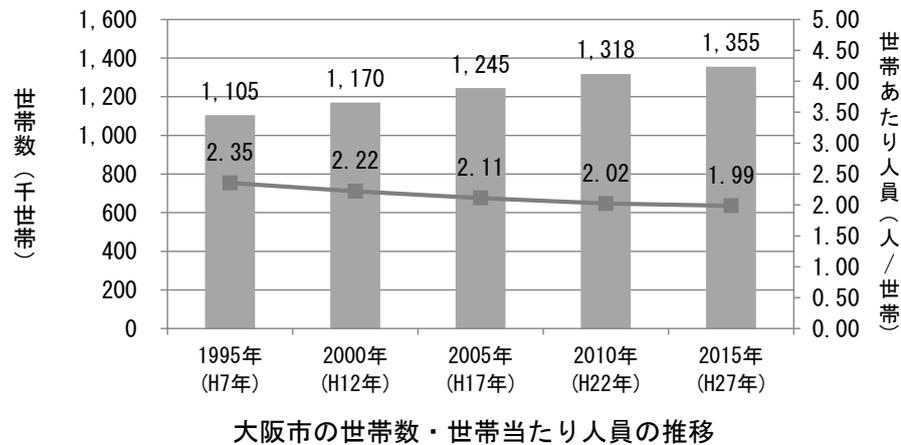
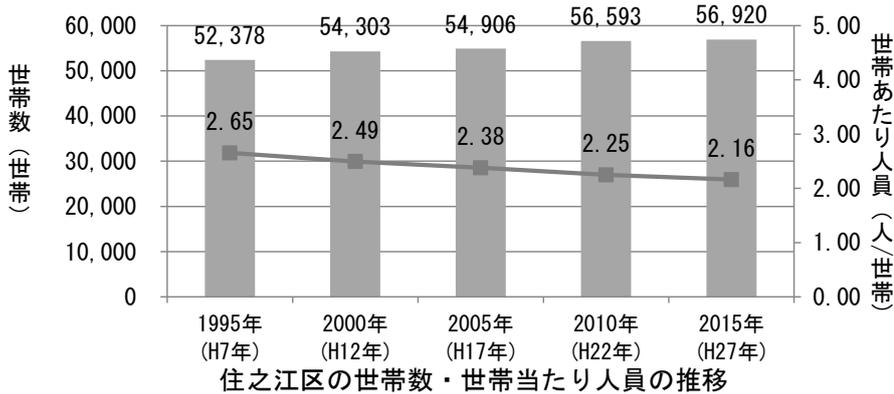
※実績値は国勢調査より。南港ポートタウンの推計値は2010(平成22)年、2015(平成27)年国勢調査人口よりコーホート要因法で独自に算出。住之江区、大阪市の推計値は『日本の地域別将来推計人口（2013(平成25)年3月推計）』より(国立社会保障・人口問題研究所)。

## (エ) 世帯数の推移

世帯数は、2010(平成 22)年まではほぼ横ばいでしたが 2015(平成 27)年に急激に減少しており、2015(平成 27)年時点で 9,196 世帯となっています。世帯あたりの人員は年々減少傾向にあり、2015(平成 27)年時点で 2.27 人/世帯となっていますが、住之江区や大阪市と比べるとやや高い水準にあります。



### 【 参 考 】



※出典：国勢調査

### (3) 住宅の立地状況

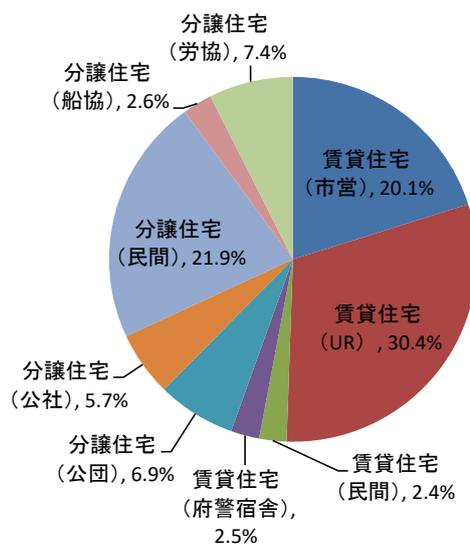
住宅は、まちびらき後の約10年で約10,000戸整備されており、すべてが共同住宅です。

特に1979(昭和54)年から1984(昭和58)年の5年間に住宅の約8割が集中して整備されています。

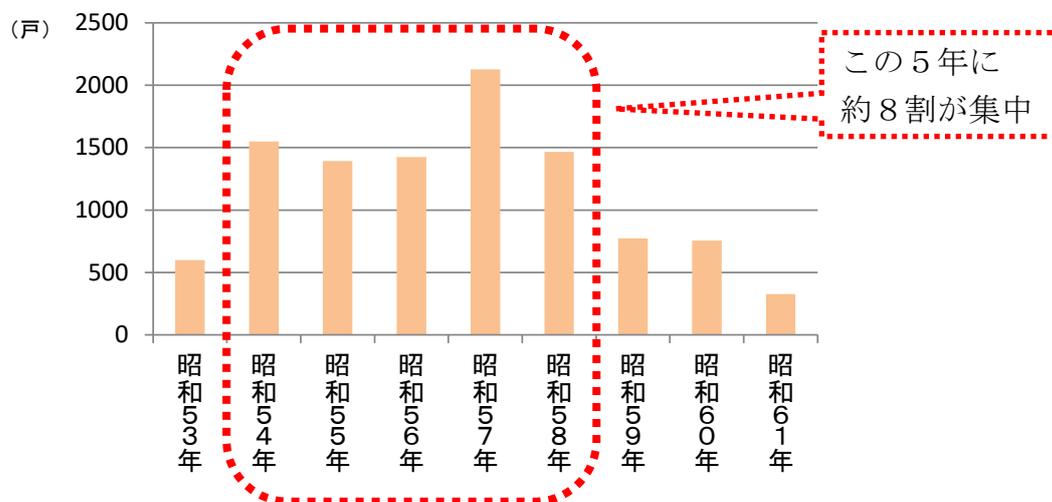
約10年後の2028年以降から一斉に老朽化への対応の時期を迎えることになります。

住宅整備状況（建設時）

住宅種類	戸数	割合
賃貸住宅	5,774戸	55.4%
市営住宅	2,094戸	20.1%
UR賃貸住宅	3,166戸	30.4%
民間賃貸 (もと雇用促進住宅)	250戸	2.4%
府警宿舍	264戸	2.5%
分譲住宅	4,640戸	44.6%
公団分譲	721戸	6.9%
公社分譲	593戸	5.7%
民間分譲	2,284戸	21.9%
船協分譲	269戸	2.6%
労協分譲	773戸	7.4%
全住宅合計	10,414戸	100%



住宅整備時期



#### (4) 学校等の立地状況

南港ポートタウン内には幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学が揃っています（予定含む）。また、周辺地域には特色ある大学・専門学校も立地しています。

- ・ 咲洲みなみ小中一貫校の開校

2018(平成30)年4月に、南港緑小学校、南港渚小学校が南港みなみ小学校に統合され、南港南中学校と併せた施設一体型の中小一貫校として開校しました。

- ・ 水都国際中学校・高等学校（国際バカロレア校認定）の開校（予定）

2019(平成31)年4月の開校をめざして南港緑小学校、南港渚小学校の跡地に、学校法人大阪YMCAを指定公立国際教育学校等管理法人として、国際バカロレア認定コースを有する公設民営学校を新設することとし、今後、開校に向けた手続き等を進めていく予定となっています。

学校等の立地状況（予定含む）

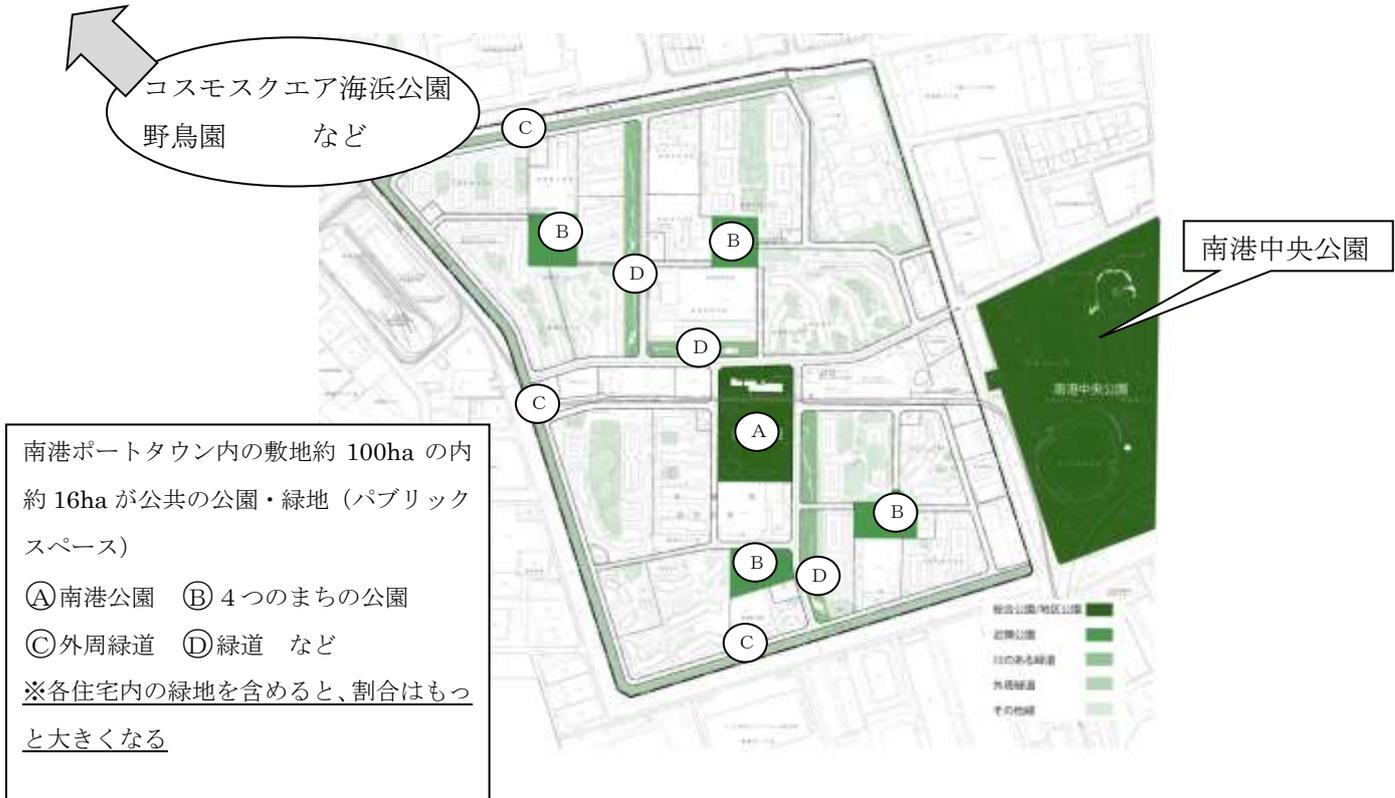


## 2 魅力

### (1) 「圧倒的なみどり」や「豊かな自然環境」

南港ポートタウンは、全敷地（約100ha）のうち約16%が公共の公園・緑地（パブリックスペース）であり、さらに各住宅地内にも緑地が多く整備されており、市内では貴重な自然環境が整っています。

周辺エリアにおいても南港中央公園、野鳥園、コスモスクエア海浜公園があるなど、多くの緑に囲まれています。また、並木道や夕日など特長的な自然景観を楽しめるスポットもあり、海へも近接している等、都心近くにありながら、身近に自然を感じられる豊かな自然環境が魅力です。



### (2) 子育てしやすい「安全」で「安心」な環境

南港ポートタウンは、全国的にも珍しいノーカーゾーン(※)の住宅地であり、歩行者にとって歩きやすい安全性の高い住宅地です。また犯罪件数も比較的少なく、地震による津波の被害が想定されていないなど、子育て世代にとっても安全で安心な生活環境が魅力です。

(※ノーカーゾーン P2 参照)



### (3) 南港ポートタウン内外に特色ある大学や企業などが存在

南港ポートタウン及び周辺エリアには、相愛大学、森ノ宮医療大学、大阪エンタテインメントデザイン専門学校、NTT ドコモレッドハリケーンズ、アジア太平洋トレードセンター株式会社、株式会社フェリーさんふらわぁ、ミズノ株式会社など、特色ある大学・スポーツチーム・企業が多数存在しています。このような大学・スポーツチーム・企業の存在は、まちづくりのパートナーとして大きな魅力です。

住之江区では、地域の発展を目的として区内の大学・企業等と包括連携協定やパートナーシップ協定を締結し、地域の活性化等につながる取り組みを促進しています。

南港ポートタウン及び周辺エリアについては、相愛大学、森ノ宮医療大学、大阪エンタテインメントデザイン専門学校とは包括連携協定を、株式会社フェリーさんふらわぁ、名門大洋フェリーとはパートナーシップ協定を既に締結し、広報・事業連携を進めています。

#### 連携事業一例

##### 【ファミリーフェスタ（以下、「ファミフェス」という）】

地域外の人に実際にまちを訪れていただき、魅力を体感していただくためのイベントを2015(平成27)年から2017(平成29)年の3ヵ年開催。大学、スポーツチーム、企業等との広報・出展等において事業連携。



##### 【「咲洲あいのもり」プロジェクト】

相愛大学、森ノ宮医療大学、住之江区役所による広報連携事業。各大学や区役所における南港・咲洲地域での「ウェルネス＝健康」をテーマとした事業において広報連携を実施。



##### 【すみのえ・南港 光のワンダーランド】

住之江区の魅力を区内外に発信することで、住之江区への愛着と誇りを育むとともに住之江区の認知度を向上させ、住之江区の活性化を図ることを目的として実施。「すみのえ・南港 光のワンダーランド実行委員会」へ大学、企業等が参画。開催場所の提供や出展等において連携。



##### 【大阪港クルージング】

住之江区のブランディング等に関する連携・協力の一環として、住之江区の魅力をより知ってもらうため、事業や広報等において企業と連携。



### 3 課題

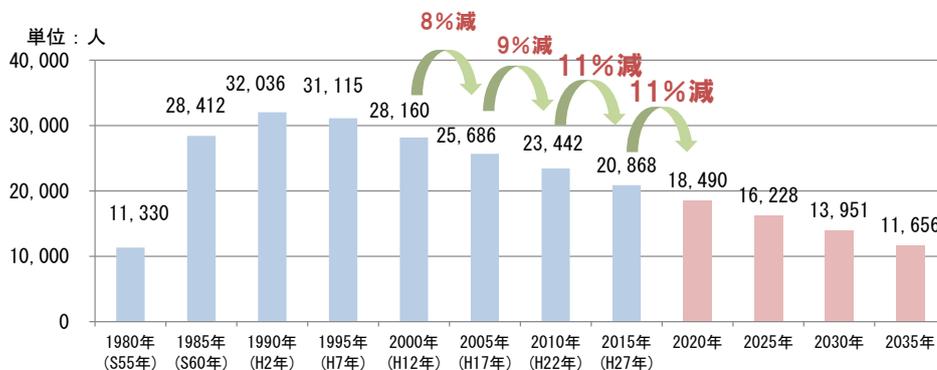
#### (1) 急激な少子高齢化・人口減少の進展

南港ポートタウンは1977(昭和52)年のまちびらき以降、約10年で一斉に住宅が整備され、住民の入居が進みました。そのため、その一次世代の高齢化や世帯分離による若年層の地区外転出などが、まちびらきから40年経った現在、特に顕著に現れてきており、これまで以上に少子高齢化の進展、人口の減少などが急速に進んでいます。

また、分譲住宅では空き住戸は比較的少なく、一部の民間賃貸住宅では、入居者が増加しつつありますが、一方で、その他の賃貸住宅では、空き住戸が徐々に増加しており、新たな世帯の流入が起りにくい状況が発生しています。

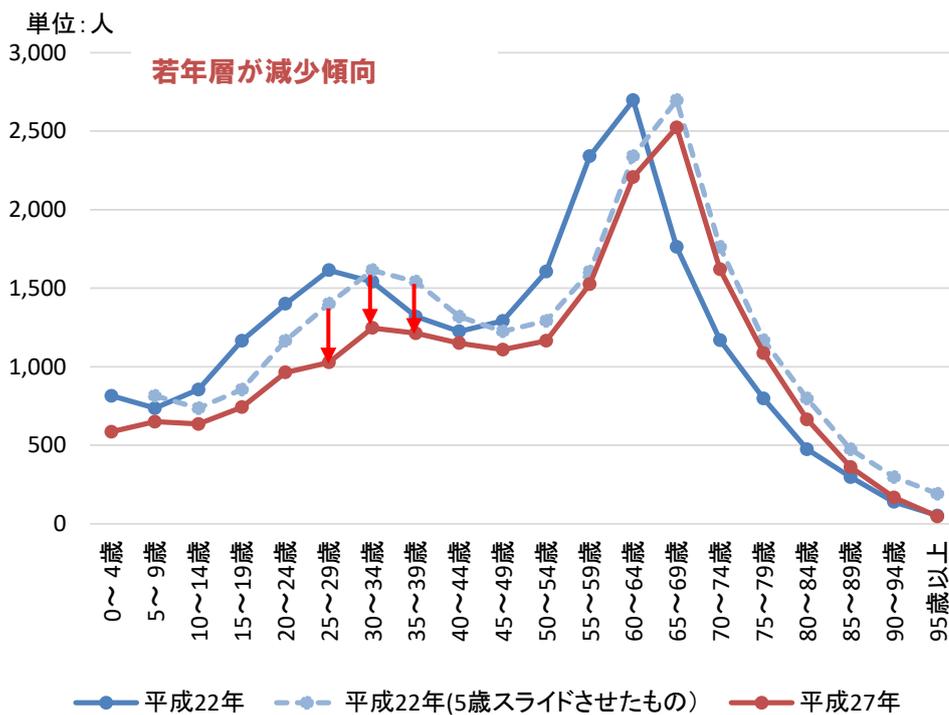
将来的にも、新たな世帯を呼び込めない限り、さらに少子高齢化や人口減少が大きく進展し、まちとしての地域コミュニティ活動や生活サービス機能の維持等が困難となる状況が懸念されます。また、コスモスクエア周辺地区の動きやベイエリア周辺の動き等を注視しつつ、南港ポートタウンにおける魅力的な居住環境など、新たな世帯が「住みたい」と思える環境づくりを進めることが必要です。

南港ポートタウンの人口の推移 (1980~2015年：実績値、2020~2035年：推計値)



出典：実績値は国勢調査より。推計値は2010(平成22)年、2015(平成27)年国勢調査人口よりコーホート要因法で独自に算出。

南港ポートタウンの5歳階級別人口構成の推移（2010(平成22)年、2015(平成27)年）



出典：国勢調査

## (2) まちの自動更新が期待できない

南港ポートタウンの住宅はすべて共同住宅であり、戸建て住宅は全くない状況です。土地は大半が公的所有、あるいは共有です。また、生活利便施設については、ポートタウン東駅と西駅周辺の一部に集中しており、空き店舗が出て、事業者の進出ニーズが乏しい状況です。さらに、南港ポートタウンは、港湾・物流施設に囲まれており、既成市街地とは隔離されています。

こうしたことから、個人所有や民間所有が多い他のまちであれば普通に行われるまちの柔軟な変化が期待できません。

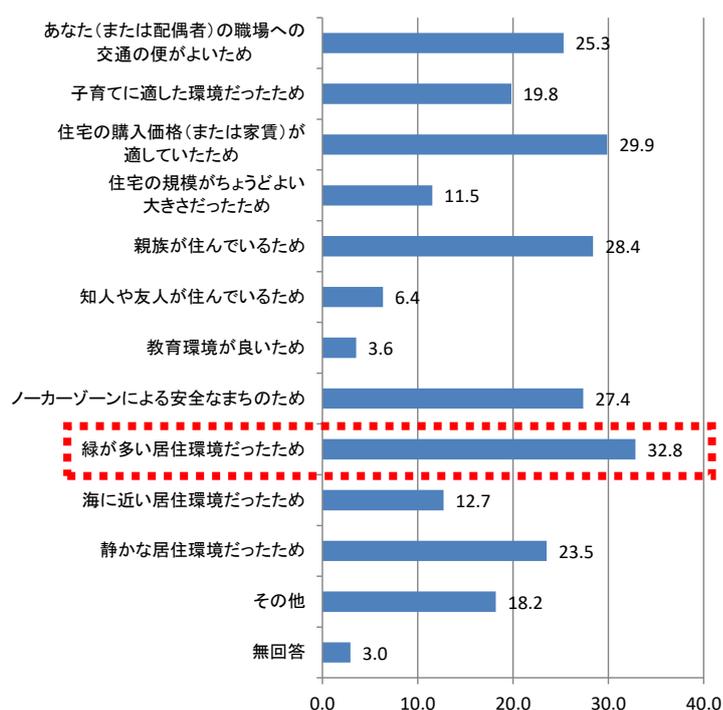
現在、住宅や商業施設の維持・改善に向けては、所有者がそれぞれ個別で検討・実施されている状況ですが、今後、フェーズ2におけるインフラの更新を見据えつつ、南港ポートタウンのまちの魅力を維持・向上していくためには、まち全体でまちの将来について考えていく必要があります。

## (3) まちに関する情報発信が不十分

南港ポートタウンには豊かな緑、安全・安心な生活環境など魅力が多くあります。

これまで、さまざまなコンテンツを駆使した魅力発信の取り組みを、区役所のみならず、咲くまちPT、企業等でも取り組んできており、地域外へ魅力発信のツールが出来つつあります。また、過去5年間に転入してきた方を対象としたアンケート調査の結果(以下、「アンケート結果」という)では、転入の決め手において、まちの魅力の一つである「緑豊かな自然」が最も回答率が高いなど、少なからず、地域外へまちの魅力が伝わりつつあります。一方で、「まちのよさが地域外の人に十分に伝わっていない」と言った意見も出ている現状を踏まえ、より持続的かつ効果的な魅力発信を引き続き行っていく必要があります。

南港ポートタウンへの転入者の転入の決め手

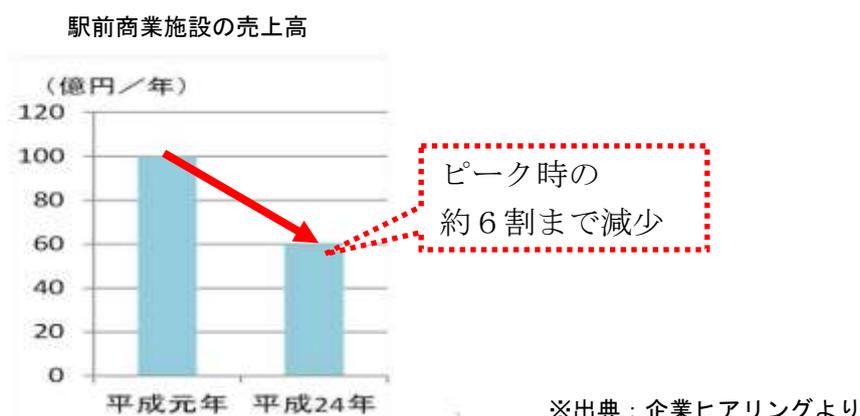


出典：南港ポートタウンにおける暮らしに関するアンケート調査  
(アンケート結果(2017(平成29)年度実施))より

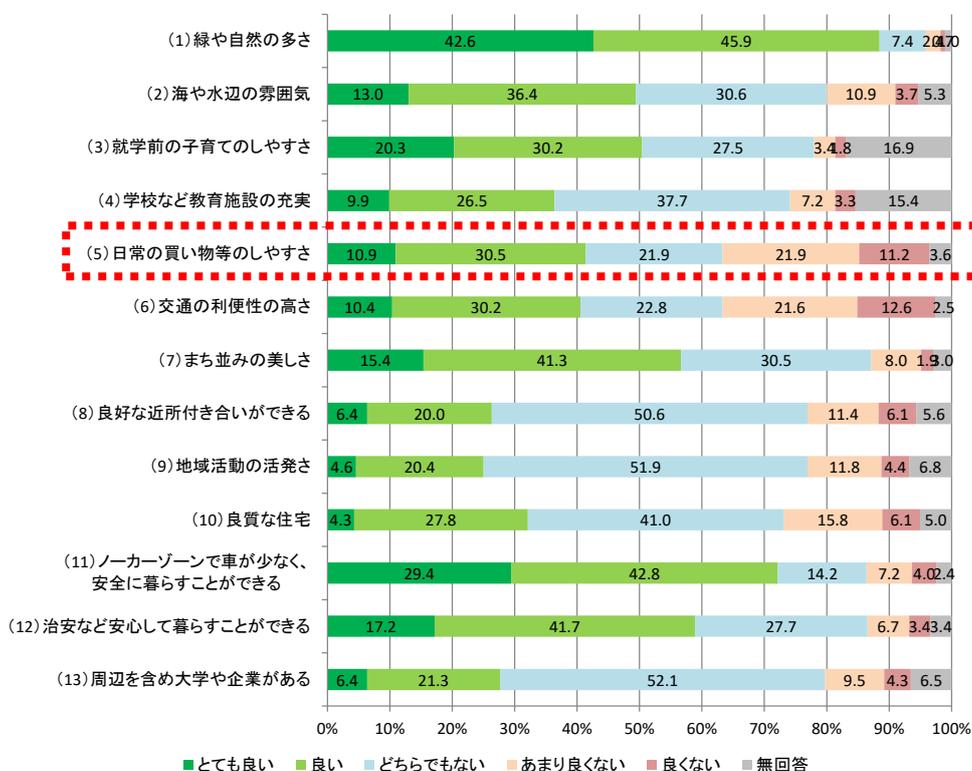
## (4) 商業施設などの撤退傾向

南港ポートタウンは駅前にスーパーを中心とした商業施設がありますが、近年の人口減少に伴う売り上げの減少などにより、洋菓子店やファーストフード店といった若者層に魅力的な店舗が一部撤退する動きが見られます。利便性は確保されていますが、アンケート結果では、「買い物等のしやすさ」の項目において「良い」とする回答が約40%となっていますが、一方で「良くない」とする回答も約30%という状況となっています。

南港ポートタウン内の商業施設は、商圈が概ね地区内に限られ、今後さらに、南港ポートタウンの人口減少が進むと商業施設における魅力の低下や撤退につながる可能性があります。



南港ポートタウンにおける暮らしの評価



※出典：南港ポートタウンにおける暮らしに関するアンケート調査  
(アンケート結果(2017(平成29)年度実施))より

## 4 めざすまちの姿

---

誰もが心身ともに健康で、いきいきと心豊かに暮らすまち

子どもたちの夢を育むまち



咲洲ウェルネスタウン構想

- 南港ポートタウンの良好な住環境を維持するとともに、現状の課題を解決するだけでなく、新たな魅力を掘り起こし、“若い世代が暮らしたいまち”をめざします。
- 公園・緑地が非常に多い、ノーカーゾーンで車が非常に少ないなど、ジョギングなどのスポーツ・健康づくりに適した環境であるという特長を活かしたまちづくり（＝咲洲ウェルネスタウン構想の実現）をめざします。
- 緑豊かな環境のもと、いきいきと学び、活動できる教育環境の形成と向上を図ることで、子どもたちの夢を育むまちをめざします。
- 住民が地域の多様なコミュニティの中で楽しみながらいきいきと活動し、そうしたコミュニティがつながり活動の輪を広げ深めながら、ともに考え行動することによってまちづくりが進みます。
- 地域でいきいきと活動し輝く住民自身が、まちの新たな魅力となります。
- 多くの若い世代を新たな住民として迎え、コミュニティが循環してさらに活発に活動し、誰もが心豊かに暮らすまちをめざします。

## 5 今後の取り組み

### (1) 基本的な考え方

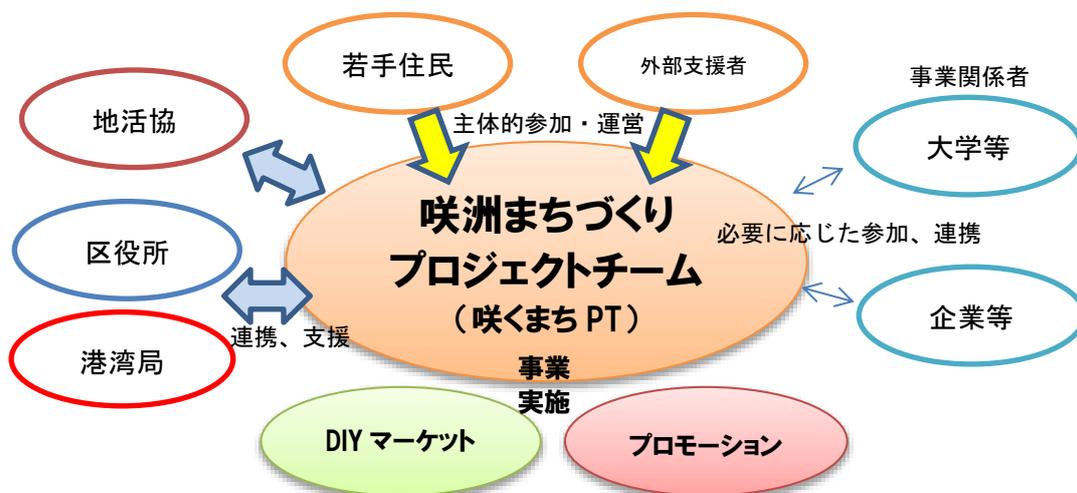
急激に進む少子高齢化・人口減少をはじめとする南港ポートタウンの課題解決に向け、南港ポートタウンを「咲洲ウェルネスタウン構想特区」として位置づけ、住民をはじめ大学・企業等とも連携し、引き続き市として特別な施策を講じていきます。

(咲洲ウェルネスタウン構想特区：2014(平成26)年11月10日 大阪市戦略会議にて決定)



**ア 地域住民を主体とした活動をさらに発展させ、住民自らがまちの変化を生み出す取り組みを促しつつ、それを支える持続的な仕組みを構築し、事業関係者とも連携しながら本格的なエリアマネジメントへと展開する**

- まちづくりにおいては、既存の地域活動や人のつながりを活かすとともに、潜在する人材を発掘して人と人をつなげることにより、楽しみながらまちの活性化に資する活動を行うとともに、活動する住民自身がまちの魅力ともなって、更なるまちの魅力向上につながっていく、そういうコミュニティがたくさん生まれることが重要です。そして、コミュニティが自発的に活動するようになり、成長・進化し続けることが重要です。
- まちづくり活動の中心となるプラットフォームとともに新たな活動やつながりを生み出すことのできる場や仕組みづくりとして、咲くまちPTを2015(平成27)年7月に立ち上げました。咲くまちPTでは、新たな人材の発掘などを進め、若手メンバーが中心となりアイデアを出し合いながら、「ファミフェス」や「DIY マーケット」、ウェブサイト「ナンコウスタイル」など主体的・自立的に様々な活動を展開してきました。今後も、住民自らが楽しみながらいきいきと主体的に様々な活動を行っていただけるよう、パブリックスペースの継続的な活用の仕組みの構築などに取り組んでいきます。
- また、こうした住民主体の取り組みをより成長・進化させるためには、地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上が重要であるため、住民、事業関係者による主体的な取り組み(エリアマネジメント)を行うための体制づくりが必要です。将来的には、咲くまちPTなど住民等を主体とした組織が南港ポートタウンのエリアマネジメントを担うまでに成長するための仕組みの構築等に向けて取り組みを進めていきます。



## イ 「先進的教育」「健康的環境」「暮らしとにぎわいの再構築」を軸に、引き続き、市として特別な施策を講じる

- 改訂前の計画において、急激に進む少子高齢化・人口減少をはじめ南港ポートタウンの課題への抜本的対策や、周辺エリアの開発と整合した魅力づくりの観点から、全市一律的な施策では不十分であることから、南港ポートタウンを市として特別な施策を講じていく「特区」として位置付け、「先進的教育」「健康的環境」「暮らしとにぎわいの再構築」を軸に、住民をはじめ大学・企業とも連携した施策を講じてきました。
- 具体的には、咲くまちPTによる活動と並行して、区の事業として大学・専門学校、スポーツチーム、企業など多岐にわたるネットワークを構築し、「先進的教育」「健康的環境」などをテーマとしたソフトの事業を展開してきました。これらにより、南港ポートタウンの「ウェルネスタウン」としてのイメージアップに一定寄与することができました。
- 小中一貫校の開校や中高一貫教育校の開校（予定）、コスモスクエア地区の動きなど、今後の南港ポートタウンに新たな世帯を呼び込むための波及効果が期待できる動きもありますが、一方で、急激な少子高齢化・人口減少の抑制には至っていない状況にあります。
- 公園・緑地が非常に多い、ノーカーゾーンで車が非常に少ないなど、ジョギングなどのスポーツ・健康づくりに適したまちであるという特長を活かし、南港ポートタウンを「咲洲ウェルネスタウン構想特区」として、引き続き「先進的教育」「健康的環境」「暮らしとにぎわいの再構築」を軸に、住民をはじめ大学・企業とも連携し、市として特別な施策を講じていきます。

**ウ 急激に進みつつある少子高齢化、人口減少の進展をはじめとする課題解決に向け、将来のまちの更新等を見据えた連携体制の整備を図る**

- フェーズ1（後半期）の推進においては、急激に進みつつある少子高齢化、人口減少の進展、住宅や施設の老朽化をはじめとする課題解決のため、南港ポートタウンに関わる事業者、具体的には大阪市（住之江区役所、都市計画局、港湾局、都市整備局など）、大学、企業等の土地所有者、さらには周辺の関連主体などが、将来のまちの更新等を見据え官民連携のもと取り組んでいくことが必要となります。
- 各事業者の役割分担を明らかにしつつ、行政側での連携体制とあわせて、企業等の事業者を含めた連携体制の整備を推進します。
- また、「計画 ver. 1.1」に基づいた取り組みを進めていくにあたり、コスモスクエア地区の周辺エリア、さらには万博、IRの今後の動向などベイエリア全体の活性化の取り組みの中での南港ポートタウンのまちづくりのあり方も検討していく必要があります。



ベイエリア全体の動向と南港ポートタウン

## (2) 具体的な取り組み(全体スケジュール)

「計画 ver. 1.0」では、具体的な取り組み(全体スケジュール)として、フェーズ1(前半期)(2015(平成27)年から約3年程度)、フェーズ1(後半期)(2018(平成30)年から約10年を目途)、フェーズ2(2030年頃～)に分け、特にフェーズ1(前半期)の取り組みとして、(ア)南港ポートタウンにおけるプロモーションの推進、(イ)3つの柱(「先進的教育」「健康的環境」「暮らし・にぎわいの再構築」)ごとの取り組み、(ウ)コスモスクエア地区の開発動向に合わせた取り組みを掲げ、順次、取り組みを進めてきました。

### 【参考：フェーズ1(前半期)(約3年程度)】

フェーズ1(前半期)は、地域住民を主体とした組織「咲くまちPT」を立ち上げるとともに、ウェブサイト「ナンコウスタイル」などによって、住民自らが楽しみながら南港ポートタウンの魅力や情報を地域外へ発信する取り組みや、地域外の人にまちの魅力を体感していただくイベントとしてファミフェス、DIYマーケットの企画運営など、南港ポートタウンのプロモーションに取り組んできました。また、できることから実践していくこととして、今ある資源を活用した、「先進的教育」「健康的環境」「暮らし・にぎわいの再構築」を軸とする施策を実施することにより、まちの魅力向上に取り組んできました。

それにより、地域の魅力(良さ)が地域外の人に知られ、多くの人々が南港ポートタウンに住みたいと考えている、健康的なライフスタイルが実現できるまちとしての認知度も高まりつつある、民間事業者の進出意欲が発生しているというような成果が徐々に現われはじめています。(中間目標1)

また施設誘致、人口回復に向けた検討を進め、できることから実践し、さらにフェーズ1を通して、コスモスクエア地区等の周辺エリアの開発の動向を注視しながら必要な検討を進めてきました。

### 【フェーズ1(後半期)(約10年程度)】

当面は、本計画に基づき、これまでの活動成果を発展させながら住民主体のまちづくり、「教育」「健康」「暮らし・にぎわい」などを軸とする施策の実施に取り組むとともに、まちの更新等を見据えた連携体制の整備を推進し、南港ポートタウンのまちのあり方や具体的な取り組み等についても検討を進めます。

それにより、未利用地等へ商業施設や民間住宅等の整備が進んでいる、住宅等の整備に伴い若者世代を中心とする人口回復が進んでいる、成熟した地域組織が主体的にまちづくりを担っている状況をめざします。(中間目標2)

フェーズ1(後半期)の中で生じるコスモスクエア地区の周辺エリア、さらには万博、IR等の今後の動向も踏まえながら本計画の改訂の検討も含め、南港ポートタウンの本格的な活性化に向けた取り組みを進めます。

### 【フェーズ2】

住宅をはじめ建物・施設等の老朽化に対応したインフラの更新等の抜本的対策を経て、最終的に目標とするまちの実現をめざします。

< イメージ図 >

(めざすまちの姿)

- ・将来にわたって、みどり豊かで安心・安全な住環境のもと、若い世代を含め多様な世代により良好なコミュニティが形成され、住民自らが楽しみながら活動することでまちの魅力が向上し、誰もが心身ともに健康で、いきいきと心豊かに暮らすまち

- ・未利用地等へ商業施設や民間住宅等の整備が進んでいる
- ・住宅等の整備に伴い、若者世代を中心とする人口回復が進んでいる
- ・成熟した地域組織が主体的にまちづくりを担っている

- ・地域の魅力（良さ）が地域外の人に知られ、多くの人が南港ポートタウンに住みたいと考えている
- ・健康的なライフスタイルが実現できるまちとしての認知度も高まりつつある
- ・住民主体の自主的な活動により、まちの魅力が高まっている
- ・民間事業者の進出意欲が徐々に発生している

最終目標

中間目標2

まちの魅力  
向上

中間目標1

- 住民主体によるまちの魅力向上とプロモーション
- 今ある資源を活用し「教育」「健康」「暮らし・にぎわい」などを軸とする施策の実施
  - ・できることから実践
  - ・施設誘致、人口回復に向けた検討
- コスモスクエア地区の開発状況を見ながら、必要な対策を講じる

- 住民主体によるエリアマネジメントへ展開
- 「教育」「健康」「暮らし・にぎわい」などを軸とする施策の実施
- まちの更新等を見据えた連携体制の整備

■インフラの更新等

計画 ver. 1.0 に基づく取り組み

計画 ver. 1.1 に基づく取り組み

前半期

後半期

フェーズ1【当面の対策】

フェーズ2【抜本的対策】

(約3年程度)

(約10年程度)

(早ければ)

2015年 - 2017年

2018年 - 2029年

2030年～

(平成27年 - 平成29年)

\*今後の議論の進展により、各取り組み・期間等については変更することがあります

### (3) フェーズ1（後半期）の取り組み

南港ポートタウンの活性化に向けて、これまで進めてきた計画 ver. 1.0 の取り組みをさらに発展させるため、咲くまち PT など住民等を主体とする組織が、将来的には南港ポートタウンのエリアマネジメントを担うまでに成長するための体制づくり・仕組みの構築に向けた取り組みを進めます。

また、子どもたちの夢を育てるまちとして、「教育」・「健康・スポーツ」をまちづくりの両輪に南港ポートタウンのブランディングを図ることで、まちとしての魅力を高め、将来にわたって若い世代が住み続けたいと思うための取り組みを進めていきます。

さらには、ベイエリア全体の中での南港ポートタウンのまちづくりやまちの魅力を高めていく方向性の検討など、まちの課題や将来像を共有し将来のまちの更新等を見据えた行政側での推進体制、事業関係者も含めた連携体制を整備していきます。

#### (ア) 南港ポートタウンにおけるプロモーションの推進と地域住民を主体としたまちづくりから本格的なエリアマネジメントへの展開

南港ポートタウンは、緑豊かな自然環境や、全国的にも珍しいノーカーゾーンを取り入れた安全・安心な環境であるなど、市内の他の地域にはない特長を有しており、その快適な住空間は、若い子育て層をはじめ幅広い世代に非常に魅力あるものです。

こうした南港ポートタウンの魅力・特長を、広く地域外の方々に知っていただくとともに、南港ポートタウンが住みやすいまちとして認知され、そこからさらに多くの人に住みたいまちとして選ばれることが重要です。

これまでの取り組み（「ファミフェス」や「DIY マーケット」、ウェブサイト「ナンコウスタイル」での情報発信など）により、豊かな住宅地としてのまちの認知度は、少しずつ高くなってきており、今後も、引き続き情報発信などの取り組みを行い、とりわけ、子育て世代等に情報が届くよう大学・企業などと連携し、戦略的な発信に取り組んでいきます。さらに、地域内外の方にまちの良さを実感していただける企画等にも取り組んでいきます。

また、今後、地域に在住する貴重な人材等を発掘するとともに、咲くまちPTの活動を発展させ、より参加の輪を拡大し、フェーズ1（後半期）の取り組みを推進するために、その取り組みが継続的かつ持続的なものとするための仕組み・体制の構築に取り組めます。

あわせて、住民主体の取り組みと連動して、より大きな枠組みで南港ポートタウンの住民・事業関係者が参加し、それぞれの役割のもとで取り組みを進めていくための体制づくりを進めていきます。

#### (施策展開の内容)

住民自らが楽しみながらその魅力や情報を発信するプロモーションの推進を図るとともに、大学、行政、企業等も連携し、南港ポートタウンのプロモーションに取り組んでいきます。

また、咲くまちPTなど住民等を主体とする組織が、将来的には南港ポートタウンのエリアマネジメントを担うまでに成長するための体制づくり・仕組みの構築等に向けた取り組みを進めていきます。

#### (実施する事業（予定）)

##### ○ 南港ポートタウンにおけるプロモーションの推進

###### ・ 様々な活動を通じた地域外への魅力発信

- 大学や企業等と連携し、地域外へ南港ポートタウンの魅力を発信
- 地域住民が中心となり、大学やスポーツチーム、企業等と連携しつつ、地域内外の人々、とりわけ、子育て世代を対象にまちの魅力を体感していただくプロモーションを企画・実施。具体的には、これまで取り組んできた「ファミフェス」や「DIYマーケット」などを南港ポートタウンにおける継続した取り組みとして引き続き、企画・実施

###### ・ ウェブサイト「ナンコウスタイル」の充実

- 「人」や「暮らし」、「イベント等」住民の目線に焦点をあてたコンテンツの発信
- まちとしての魅力とあわせて、「居住する」ことをイメージできる暮らしの情報など、南港ポートタウンへの居住につなげるサイト情報の充実

###### ・ 地域における新たな人材の発掘

- クリエイター等の貴重な人材を発掘し、人と人とをつなげることにより、既存の取り組みの充実を図るとともに、新たな取り組みについても検討・実施し、まちのプロモーションへとつなげる

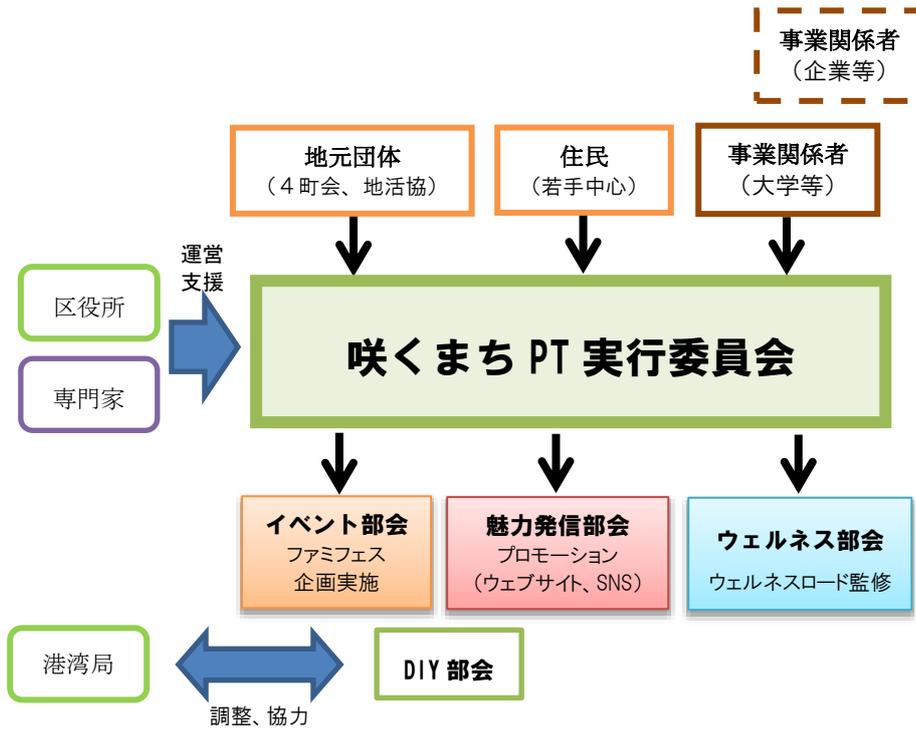
##### ○ 主体的な取り組みをさらに進めるための体制づくり・仕組みの構築に向けた取り組み

###### ・ 「活動体」「協議体」の体制づくり・仕組みづくり

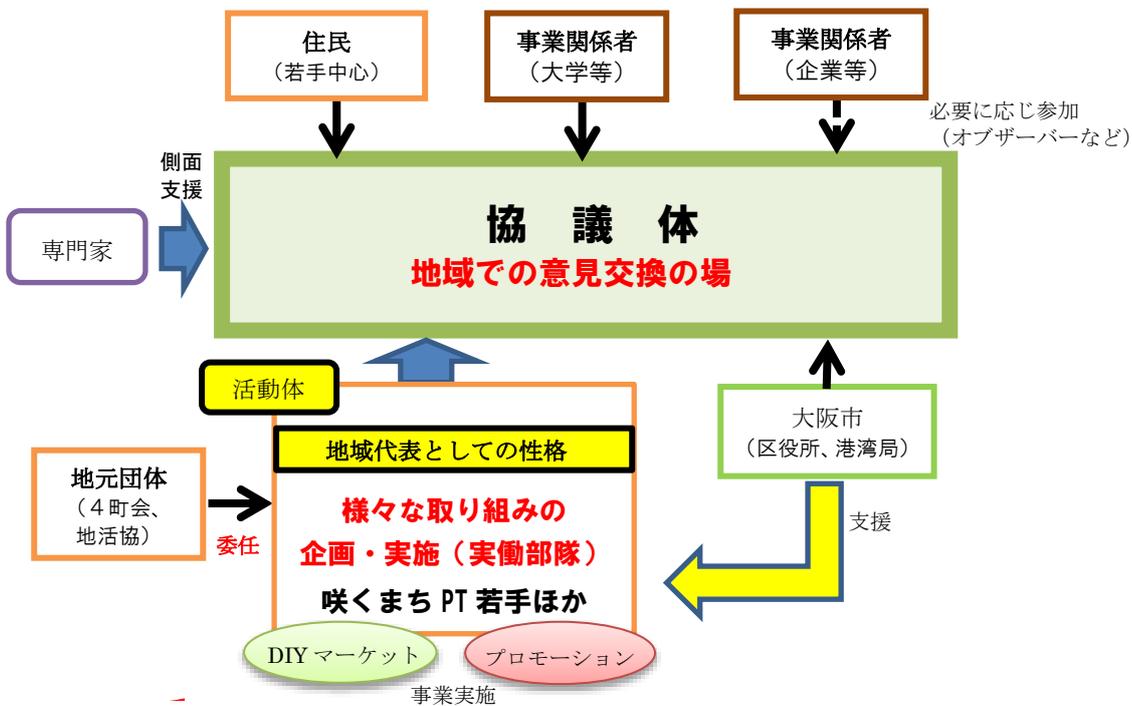
「咲くまちPT」を基本として、「活動体」「協議体」による両輪の推進体制の構築に向けた連携支援

- 「活動体」として、若手住民など参加メンバーを中心とした活動しやすい体制づくりと活動に対する側面的な支援
- 「協議体」として、咲くまちPTに参加する住民・大学等に加え、事業関係者も必要に応じて参加し、まちの課題や将来像などについて意見交換する場としての新しい体制づくりへの支援

【これまでの組織体制】



【将来的な組織イメージ】



## (イ) 3つの柱（「先進的教育」「健康的環境」「暮らし・にぎわいの再構築」）ごとの取り組み

子どもたちの夢を育てるまちとして「教育」・「健康・スポーツ」をまちづくりの両輪に、南港ポートタウンのブランディングを図ることで、まちの活性化に取り組みます。

これまでの取り組みを引き続き推進することにより、まちとしての魅力を高め、まち全体のプロモーションを推進するとともに、空き施設等を活用した利便施設の誘致など、若い世代を迎え入れるための取り組みを実施していきます。

### ① 先進的教育

南港ポートタウン内外に特色ある大学や企業などが立地している特長を活かすとともに、このまちならではの先進的教育を提供することで、子どもの学力と体力、豊かな心を伸ばす教育環境を形成し、南港ポートタウンにおける教育環境の向上をめざします。

#### (施策展開の内容)

子どもの学力と体力、豊かな心を伸ばすため、フェーズ1（前半期）にて取り組んできた先進的教育をさらに推進します。

南港渚小学校と南港緑小学校を統合し、「南港みなみ小学校」として、南港南中学校敷地内に施設一体型小中一貫校となる「咲洲みなみ小中一貫校」を2018(平成30)年4月に開校します。他の小中一貫校にはない特色ある取り組みをフェーズ1（前半期）に引き続き、取り組みを進めます。

また、小中一貫校開校に伴う各小学校の跡地を活用し、日本初の公設民営による中高一貫教育校「大阪市立水都国際中学校・高等学校」を2019(平成31)年4月に開校します。一部のコースで、国際バカロレアプログラムを導入するなど国際理解教育を推進します。

#### ※国際バカロレア（IB）とは

国際バカロレア（IB: International Baccalaureate）は、世界140以上の国・地域、約4,800校（2017(平成29)年6月現在）で採用されている国際的な教育プログラム。高校3年生で受ける認定試験で一定の成績を収めると国際的に通用する大学入学資格を取得することができる（大阪市教育委員会資料より）。

(実施する事業 (予定))

○ 特色ある教育の実施

- ・ 咲洲みなみ小中一貫校 (南港みなみ小学校・南港南中学校) において、ICT 教育 (プログラミング教育、e-ラーニングなど) を引き続き実施
- ・ 放課後等を活用した重点教育の実施
- ・ 大学連携による地域住民への図書館の利用提供 (登録料の減額)

○ 芸術・文化を通じた人材育成

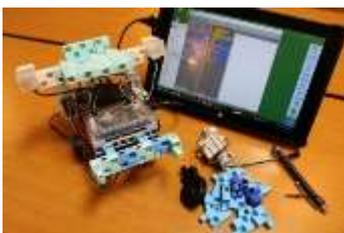
- ・ 大学、企業等と連携し、芸術・文化を通じた人材育成

○ 健康・スポーツを通じた人材育成

- ・ スポーツチーム・企業等との交流や専門的指導 など

○ 外国語教育と国際理解教育の推進

- ・ 日本初の公設民営による中高一貫教育校「水都国際中学校・高等学校」を 2019(平成 31)年 4 月に開校 (予定)
- ・ 外国語教育と国際理解教育に重点を置いた教育を行い、一部の教科で、専任外国人教員による英語を用いた授業を実施 (国際バカロレアプログラムの導入を予定)
- ・ 自国の伝統や文化を理解し、世界に向けた発信力を高めるとともに、グローバルな視野に立って主体的に行動できる人材の育成



## ② 健康的環境

南港ポートタウンは、まちの中心地から外周まで徒歩 10 分圏内であり、1 km 四方に囲まれた非常にコンパクトなまちです。さらに、「緑豊かな自然環境」や「ノーカーゾーン」など魅力ある資源があり、ウォーキングやジョギング等、健康づくりやスポーツに適した環境が整っています。また、南港ポートタウン内及び周辺エリアには、特色ある大学やスポーツチーム、企業などが多数存在しています。

こういった魅力ある条件を活かして、健康的なライフスタイルが実践できるまちとして魅力を創出し、心身にとって健康的な環境が豊かな「ウェルネスタウン」の実現をめざします。



### (施策展開の内容)

周辺エリアの特色ある大学やスポーツチーム、企業などと連携し、日常的な体力づくり・健康づくりに適した「健康・スポーツのまち」としての拠点づくりを行うことで、「ウェルネスタウン」としてのまちの魅力向上につなげ、まちの活性化に取り組みます。

### (実施する事業（予定）)

#### ○ 大学・企業等と連携した取り組みの推進

- ・南港ポートタウン内及び周辺エリアに特色ある大学や企業などと連携し、健康をテーマとした「咲洲あいのもり」プロジェクトなどの取り組みを推進

#### ○ 健康・スポーツ体験の取り組みの推進

- ・大学やスポーツチーム、企業等と連携し、健康・スポーツに触れる機会づくりを提供

### ③ 暮らしとにぎわいの再構築

若い世代が自らのライフスタイルにあった暮らしを実現できるよう住環境の充実を図っていきます。また、人と人との関わり・交流などを促進するためのにぎわいづくりを引き続き推進します。

#### (施策展開の内容)

緑豊かな自然環境を活かし、木漏れ日のもと、人々が集まり会話し、交流するなど、緑の中でにぎわいの生まれる場の創出に引き続き、取り組みます。

また、子育て世帯向けの住宅の供給や未利用地、空き店舗を活用した利便施設の誘致など、居住地としての魅力を向上させ、若い世代・子育て層の入居促進をめざします。



#### (実施する事業（予定）)

##### ○ 緑地を活用したにぎわいづくり

- ・住民主体で運営する「ナンコウ DIY マーケット」の継続実施
- ・緑地の持続的な活用へと展開するために必要な対策の検討
  - 公益性を担保しながら事業を展開し、まちづくりに還元するための新たな仕組みづくり
  - 民間事業者による利活用

##### ○ 市営住宅の新婚・子育て世帯枠募集

##### ○ UR 都市機構へ UR 賃貸住宅への若い世代・子育て層の入居促進の働きかけ

##### ○ 商業施設の管理・運営事業者へ空き店舗の活用などの働きかけ

## (ウ) 将来のまちの更新等を見据えた推進体制の整備 ～ 魅力を高めるまちの機能と空間づくり ～

フェーズ1（後半期）においては、急激に進みつつある少子高齢化・人口減少等の抑制に向け、南港ポートタウンの魅力を高めるまちの機能と空間づくりに着手していく必要があります。また、コスモスクエア地区の開発状況、夢洲地区の万博誘致（2018(平成30)年11月に開催地決定予定）、IR誘致など、咲洲地域の社会環境の変化に従い、南港ポートタウンに求められる役割や土地活用ニーズも変化する可能性があります。

そこで、行政側での連携体制などの整備とあわせて、企業等も含めた事業関係者が、まちの課題や将来像を共有しながら、住宅や未利用地等も含めたまちの機能更新・土地利用の検討を進める体制づくりに取り組んでいきます。

加えて、万博、IRなど、ベイエリアに注目が集まる中、咲洲地区全体の魅力発信の大きなチャンスとして捉え、ベイエリア全体の中での「ウェルネスタウン」としてのモデルとなる先進的なまちづくりの調査・研究にも取り組んでいきます。

### (施策展開の内容)

南港ポートタウンの事業関係者により、まちの魅力を高めていく方向性の検討や想定される変化に柔軟に対応できるまちづくりの連携体制を整備します。

それと並行し、急激に進みつつある少子高齢化・人口減少等をはじめとする課題解決に向け、南港ポートタウンの魅力を感じていただける若い世代の転入を促進するため、未利用地や既存住宅ストックのリノベーション、さらにはベイエリア全体の中での南港ポートタウンのまちづくりなど、南港ポートタウンの魅力を高めるまちの機能と空間づくりを検討する体制を整備します。

### (実施する事業（予定）)

#### ○ 行政側での推進力と連携体制の整備

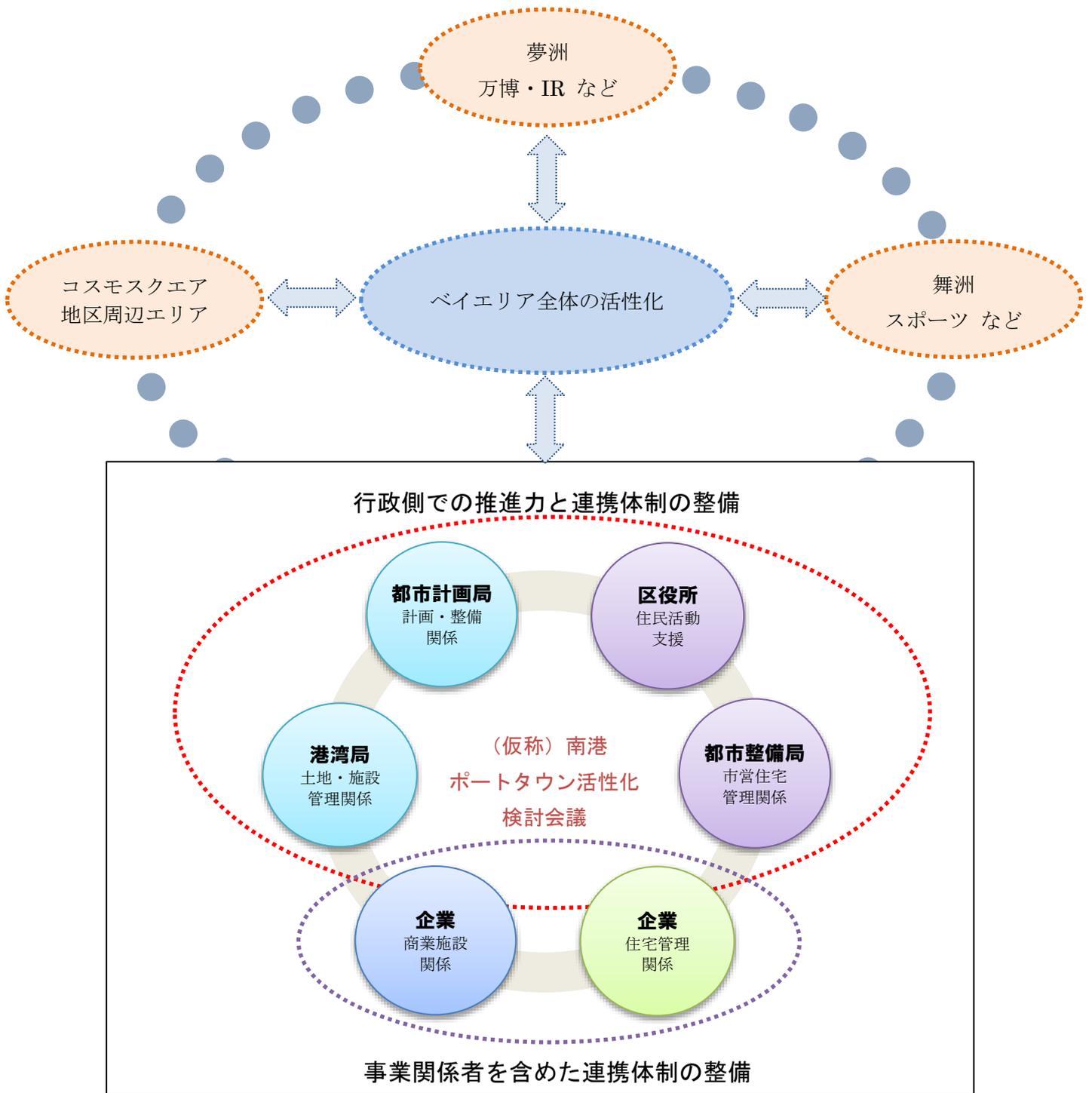
- ・まちの活性化に向けて、関係局を含む検討体制・連携体制の整備

#### ○ 事業関係者を含めた連携体制の整備

（行政、住宅供給事業者、土地・施設所有者等による検討の体制づくり）

- ・行政と事業関係者が参加し、まちの活性化に向けて本格的に検討する横断的な場（(仮称)南港ポートタウン活性化検討会議）の整備

バイエリア全体の動向と南港ポートタウンの事業関係者を含む連携体制（イメージ）



[参考] 計画改訂までの主な経過

●2012(平成 24)年度	12 月	市長・副市長会議 (※ 1)		
●2013(平成 25)年度	10 月	住民との意見交換会 (※ 2)	開催	
	11 月	住民との意見交換会	開催	
	12 月	住民との意見交換会	開催	
●2014(平成 26)年度	6 月	第 1 回 若者住民の会 (※ 3) との意見交換会	開催	
	7 月	第 2 回 若者住民の会との意見交換会	開催	
		第 3 回 若者住民の会との意見交換会	開催	
	8 月	第 4 回 若者住民の会との意見交換会	開催	
		第 5 回 若者住民の会との意見交換会	開催	
	9 月	第 1 回 シニア住民の会 (※ 3) との意見交換会	開催	
		第 6 回 若者住民の会との意見交換会	開催	
	10 月	第 2 回 シニア住民の会との意見交換会	開催	
	11 月	第 7 回 若者住民の会との意見交換会	開催	
		大阪市戦略会議 (※ 4)		
	2015(平成 27)年	2 月	第 3 回 シニア住民の会との意見交換会	開催
		第 8 回 若者住民の会との意見交換会	開催	
●2015(平成 27)年度 (※ 5)	4 月	「咲洲ウェルネスタウン計画 ver. 1.0」	策定	
	7 月	咲洲まちづくりプロジェクトチーム	結成	
		第 1 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
		第 2 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
	10 月	第 3 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
2016(平成 28)年	2 月	第 4 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
●2016(平成 28)年度 (※ 6)	6 月	第 1 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
	9 月	第 2 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
	11 月	第 3 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
	2017(平成 29)年	1 月	第 4 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催
	3 月	第 5 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
●2017(平成 29)年度 (※ 7)	9 月	第 1 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	
	11 月	第 1 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム リーダー会議	開催	
	12 月	第 1 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム 全体会議	開催	
	2018(平成 30)年	1 月	第 2 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム 全体会議	開催
	3 月	第 2 回 咲洲まちづくりプロジェクトチーム実行委員会	開催	

- (※1) 住之江区長より南港ポートタウンの課題と対策の必要性などについて説明し、市長より検討を進めるよう指示（その後、住之江区役所のもとに関係各局が参画し、市内部での検討を開始）
  
- (※2) 南港ポートタウンの4つの地域活動協議会（南港緑・花の町・海の町・太陽の町）から推薦された子育て世代を中心とした住民との意見交換会  

（地域活動協議会とは、南港ポートタウンにおいては、さざんか南港緑協議会、さざんか花の町協議会、さざんか海の町協議会、さざんか太陽の町協議会を指し、小学校区を単位として、地域振興会や社会福祉協議会など地域住民の組織をはじめとした地域のまちづくりに関する様々な市民活動団体が幅広く参画し、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保しながら、様々な分野において地域課題に対応するとともに地域のまちづくりを推進することを目的として形成された連合組織）
  
- (※3) 住民との意見交換会を「南港・咲洲の未来を考える住民の会」として組織を拡充し、主たる協議の場として4つの地域活動協議会から推薦されたメンバーからなる「若者住民の会」と、4つの地域活動協議会の会長等からなる「シニア住民の会」で構成
  
- (※4) 南港ポートタウンを「咲洲ウェルネスタウン構想特区」と位置付け、南港ポートタウンの再生に向けて市として特別な施策を講じていくこと等を決定
  
- (※5) 2015(平成27)年度には、実行委員会のほかに「イベント部会」を18回、「魅力発信部会」を15回、「ウェルネス部会」を9回開催
  
- (※6) 2016(平成28)年度には、実行委員会のほかに「イベント部会」を13回、「魅力発信部会」を13回、「ウェルネス部会」を6回開催
  
- (※7) 2017(平成29)年度では、実行委員会のほかに、10月までに「イベント部会」を5回、「魅力発信部会」を7回開催しており、11月からは各部会を取りまとめた「全体会議」として開催  
また、咲くまちPTによる「緑地を活用したにぎわいづくり」として「ナンコウDIYマーケット」を2017(平成29)年以降、定期的に開催（奇数月の第一日曜）

## おわりに

---

今回、「咲洲ウェルネスタウン計画 ver. 1.0」の取り組み進捗に伴い、これを改訂し、フェーズ1（後半期）以降の具体的な取り組みを進めていくための計画として「咲洲ウェルネスタウン計画 ver. 1.1」を取りまとめました。

今後、この計画に基づき、引き続き住民をはじめ地域を構成する関係者の皆さまとともに、これまでの取り組みからの課題を踏まえながら、より取り組みを発展させていきたいと考えています。

めざすまちの実現に向けてはまだまだ先は長く、フェーズ2での中長期的な取り組みとして、インフラ整備など、抜本的な対策についてさらに検討が必要となっています。

今後、コスモスクエア地区の開発状況、夢洲地区の万博誘致（2018(平成30)年11月に開催地決定予定）、IR誘致など、咲洲地域の社会環境変化に従い、この「咲洲ウェルネスタウン計画 ver. 1.1」についても、改訂を視野に入れながら取り組んでいく必要があります。

引き続き、住民との議論を行うとともに、市の関係各局とも連携して、着実に取り組みを推進してまいります。

